

中国河北省および山東省に残る 仏教造像銘と墓誌の調査

桐原孝見

(龍谷大学大学院)

目次

1. 2013 年 中国河北省・山東省調査行程
2. 調査の概要
3. 調査を終えての所感

【キーワード】：河北省 山東省 北朝 仏教石刻 造像銘 墓誌

1, 2013 年 中国河北省・山東省調査行程

日程：2013 年 8 月 1 日（木）～8 月 10 日（土）（9 泊 10 日）

調査者：佐藤智水・市川良文・倉本尚徳・桐原孝見 他

目的：中国河北省および山東省に残る仏教造像銘と墓誌の調査

8 月 1 日（木） 大阪→仁川（韓国）→山東省済南市→河北省石家荘市

09:30 関西国際空港 発（KE722）

11:00 仁川国際空港 着

13:55 仁川国際空港 発（KE847）

……………以下，中国時間……………

14:10 済南空港 着（山東省済南市）

14:55 済南空港 発（バスにて）

18:50 ホテル（河北省石家荘市，凱旋金悦大酒店）着

8 月 2 日（金） 河北省石家荘市

08:45 出発（徒歩にて）

08:55 【河北省博物館（新館）】着 （昼食は博物館内にて）

13:30 出発 （ホテルに 1 度戻る）

13:40 ホテル（凱旋金悦大酒店）着

14:20 出発（バスにて）

14:30 【河北省文物保護中心】着

15:00 出発

15:15 ホテル（凱旋金悦大酒店）着

8 月 3 日（土） 河北省石家荘市→河北省邯鄲市
臨漳県→山東省済南市

08:00 出発（河北省石家荘市）

11:45 【鄴城博物館】着（河北省臨漳県）（昼食は博物館内にて）【図 1】

15:30 出発

20:00 ホテル（山東省済南市，舜耕山荘）着



【図 1】鄴城博物館

8 月 4 日（日） 山東省済南市

08:30 出発

08:50 【山東省文物考古研究所】着

10:45 出発

11:20 昼食
12:05 出発
12:25 【山東博物館】着
15:55 出発
16:10 【山東石刻芸術博物館】着
17:45 出発
18:00 夕食
19:20 出発
19:40 ホテル（舜耕山荘）着

8月5日（月） 山東省済南市→鄒城市→泰安市寧陽県→済南市

07:30 出発（済南市）
10:30 【嶧山】着（鄒城市）【図2】
11:00 嶧山の山頂に到着
13:30 下山
13:50 同地にて昼食
15:30 出発
17:00 【神童山】着（寧陽県）
18:10 神童山の山頂に到着
19:00 下山し出発
21:30 ホテル（舜耕山荘）着（済南市）



【図2】嶧山

8月6日（火） 山東省済南市
午前中、希望者が【黄石崖石窟】へ
14:00 出発
14:15 【済南市博物館】着
16:00 出発（後、市内散策）
19:30 ホテル（舜耕山荘）着

8月7日（水） 山東省済南市→淄博市→淄博市桓台县→滨州市博興県

07:30 出発（済南市）
09:30 【淄博市博物館】着（淄博市）
11:15 出発
11:25 昼食
13:15 出発
13:50 【拿雲美術博物館】着（桓台县）
15:30 出発
15:40 【桓台县博物館】着（桓台县）
16:00 出発
16:25 【忠勤祠】着（桓台县）

17:05 出発
19:15 ホテル（博興賓館）着（博興県）

8月8日（木） 山東省浜州市博興県→青州市

08:30 出発（徒歩にて）
08:45 【博興県博物館】着（博興県）
11:30 出発（博物館が昼休みのためホテルへ）
11:40 ホテル（博興賓館）着
13:30 ホテル出発
13:45 昼食
14:35 出発
14:40 【博興県博物館】着（博興県）【図3】
16:30 出発（バスにて）
17:00 【興国寺】着（博興県丈八佛村）【図4】
17:40 出発
19:00 ホテル（青州国際大酒店）着（青州市）



【図3】博興県博物館

8月9日（金） 山東省青州市

08:50 出発
08:55 【青州市博物館】着（博物館内にて昼食）
16:55 出発
17:00 ホテル（青州国際大酒店）着



【図4】興国寺丈八佛

8月10日（土） 山東省青州市→淄博市臨淄区→済南市→仁川（韓国）→大阪

07:40 出発（青州市）
08:20 【斉国歴史博物館】着（臨淄区）
09:05 出発
09:20 【臨淄石刻館】着（臨淄区）
10:20 出発
11:40 済南空港近くにて昼食（済南市）
12:45 出発
12:50 済南空港 着
15:05 済南空港 発（KE848）

……………以下、日本時間……………

17:45 仁川国際空港 着
19:15 仁川国際空港 発（KE721）
20:55 関西国際空港 着

2, 調査の概要

本年度の調査は、河北省と山東省との二省で行った。二省では、数年来継続して調査を行っている。

調査期間は、2013年8月1日（木）から8月10日（土）までの計10日間であった。

目的は、これまで未調査の仏教造像銘、過去に調査が不十分であったものの再調査である。

8月1日（木）は、韓国の仁川国際空港を経由して、中国山東省済南市の済南空港に向かった。済南空港到着後は、バスで河北省石家荘市へと向かった。

8月2日（金）は、午前から午後にかけて石家荘市にある河北省博物館で調査を行い、河北省文物保護中心へ赴いた。

河北省博物館では、河北省曲陽県から出土した造像銘の調査を行った。

調査にあたっては、同博物館が2013年5月に展観を新装していたため、展示プランを分担して記録した。

その後、分担して展示物の撮影、造像銘の移録および補遺調査を行った。

移録および補遺調査したものは、「張道明夫妻造阿弥陀仏立像（武定8年（550））」、「北齊乾明元年（560）銘佛像底坐」である。

河北省文物保護中心では、劉建華氏と研究交流を行い、翌日訪れる鄴城博物館の手配をしていた。

8月3日（土）は、河北省石家荘市から河北省臨漳県三台村にある鄴城博物館へと向かった。

鄴城博物館では、同博物館研究員の何利群氏と響堂山博物館館長の趙立春氏に出迎えていただき、まず館内を案内していただいた。

同博物館では、昼食をはさみつつ、新たに出土した白玉像を中心に調査を行った。

移録したものは、「張景章造觀世音像（武定2年（544））」、「劉伯陽造釈迦像（太和19年（495））」、「李廻香造太子思惟像（武定2年（544））」、「作文賢造釈迦像（武定6年（548））」、「道智造釈迦像（武定4年（546））」、「三種法榮造像（正^{アキ}□2年歳次乙酉とあることから、正始2年（505）か?）」、「道勝造薬師像（元象元年（538））」、「僧略造釈迦像（武定5年（547））」、「皇海伯造觀世音像（天保6年（555））」、「天平2年（535）10月22日銘造像碑」である。

あわせて、移録を行った部屋の展示プランも記録した。

調査終了後は、山東省済南市へと向かった。

8月4日（日）は、済南市の山東省文物考古研究所（卮字会旧趾に併設）にて研究員の劉延常氏に出迎えていただき、歓談をもったのち、所内を案内していただいた。

また、所内に保管される崔氏関係の墓誌を調査した。

墓誌の全内容の移録と写真撮影とは、許可されなかった。しかし、内容の一部移録と寸

法の計測とについては、許可された。

一部移録したものは、「崔文貞侯墓誌」、「崔夷吾墓誌」、「崔侯夫人張玉憐墓誌」「崔使君墓誌」、「崔德墓誌」、「崔混墓誌」、「崔博墓誌」である。

なお、卅字会とは、1930~1940 年代おもに商人が活動を支えた五教合一（儒・仏・道・回・景）の組織であるという。

午後からは、場所を移して、済南市にある山東省博物館で調査を行った。

調査では、まず過去に作成した展示プランと異同がないかを確認した。

つづいて、過去に移録を行ったものの再確認を行い、新たに移録をする必要のある造像銘は移録をおこなった。

再確認および移録したものは、「比丘道休造弥勒像記（孝昌 3 年（527））」、「背屏三尊像」、「路文助造三尊像（武定 2 年（544））」、「清信女蘇男姜等造像記」、「薛樹花造像記（武定 5 年（547））」、「比丘僧道安等二百人造像記（武平 5 年（574））」、「盖僧伽造像記（天保 7 年（556））」、「天保 10 年（559）6 月 8 日銘造像塔」、「羅^ら繁^き鬼造無量寿仏題記」、「張道果造弥勒像題記」、「孫静造観音像題記（河清 2 年（563））」、「曹景略造盧舎那像題記（天統 5 年（569））」、「于景略造塔題記（天統 3 年（567））」、「皇建 2 年（561）10 月 30 日銘造盧舎那像題記」である。

山東省博物館での調査終了後は、同市にある山東省石刻芸術博物館で調査を行った。

ここでは、山東省博物館に出陳される「比丘道休造弥勒像記」の台座を確認し、過去に調査を行っているものを確認をした。

同博物館の資料庫は改修されており、立派なサンルーム、照明器具が導入されていた。

8 月 5 日（月）は、済南市から鄒城市にある嶧山へと向かった。

道中、乗車しているバスのサイドブレーキがあまく、エンジントラブルに見舞われたが、目的地近くであったため、嶧山の麓を走るバッテリーカーで向かった。

同地では、博物館館長の胡新立氏に出迎えていただき、氏とともにリフトで山頂近くまで登った。山頂までと下山は徒歩であったが、氏より点在する建造物についての説明をしていただいた。

調査の対象は、山頂と山の中腹とにある摩崖石刻（その 1 つは、「河清 3 年（564）銘何能等題名石刻」）であった。

下山してからは、氏とともに情報交換を行った。

終了後、修理が完了したバスで、寧陽県の神童山に向かった。

神童山では、山頂にある摩崖石刻の現状調査と写真撮影とを行った。

山は、途中に整備の跡があるものの荒れており、8 合目付近から道すら無い険しいものであった。

調査を終えると、済南市へ戻った。

8 月 6 日（火）は、午前中に希望者が黄石崖石窟へ向かった。

事前に落石注意の情報があつたものの、現在は綺麗に整備されているとのことである。

午後からは、済南市の済南市博物館にて調査を行った。

博物館では、市の西^{さい}巷出土仏教窖藏と墓誌の調査を行った。その後、展示プランを記録

し、「天保3年（552）2月4日銘五尊仏立像」の移録を行った。

8月7日（水）は、済南市から淄博市へと移動した。

淄博市では、淄博市博物館で調査を行った。

倉庫内において「傳堅眼墓誌」の寸法測定と、写真撮影をした。なお、傍らには元代の道教関係碑があった。

調査が終了すると、博物館の方に案内されて、陶磁器関係の展示を見学した。

その後、淄博市文物局長の于崇遠氏、同市文物副局長の宋傑氏、同市文物局博物館課課長の郎愛武氏とともに、情報交換を行った。

つづいて、桓台县に移動し、拿雲美術博物館を訪れた。

博物館では、館長の劉建氏に出迎えていただいた。情報交換をするとともに、所蔵される造像銘および山東省出土の墓誌を幾つか調査した。

また、劉建氏の案内で桓台县博物館を訪れ、館内を見学した。

見学を終えると、引き続き同氏の案内で忠勤祠を尋ねた。

敷地内では、「孫遼碑」を見ることができた。

予定した調査を終えたため、桓台县から博興県へと移動した。

8月8日（木）は、博興県の博興県博物館で調査を行った。

本博物館は、過去何回かにわたって調査に訪れている。

そこでまず、過去に作成した展示プランと現在の展示内容に違いがないかを確認した。

つぎに、分担して過去に移録した内容を確認した。

そして、移録が必要なものについては、新たに移録作業を行った。

確認および移録したものは、「武定5年（547）6月8日銘造像碑」、「大業4年（608）銘造像碑」、「孝昌2年（526）銘造像碑」、「天統元年（565）6月19日銘菩薩立像」、「比丘惠愍等造像碑」、「項智坦造像（坐像）（興和4年（542））」、「明敬武造觀音立像（永平4年（511））」、「多宝像（二仏並坐）（景明元□（500））」などである。

調査終了後、同県の丈八仏村にある興国寺を訪れた。

部分ながら台座に文字が確認出来たので、移録を行った。

その後、青州市へと移動した。

8月9日（金）は、青州市の青州博物館にて調査を行った。

同博物館では、研究所長である莊明軍氏の出迎えをうけた。

しばらく歓談して、情報交換を行った後、作業を開始した。

その内容は、造像銘が多数陳列される、石刻雕塑像陳列廳の展示プランを確認および記録することからはじめた。

つづいて、過去に移録したものの内容を再確認した。

そして、移録が必要なものについては、新たに移録作業を行った。

確認および移録したものは、「孝昌3年（527）8月13日銘造像碑」、「仏菩薩三尊像（永熙2年（533））」、「仏造像碑（高柳鎮北馬蘭村出土）」、「四面造像碑（高柳鎮南石塔村出土）」などである。

また、館内をすこし移動し、回廊部分にある造像銘の確認および移録作業を行った。
これらの造像銘は、かつて博物館の庭に置かれていたものである。
新たに移録したものとしては、「建明2年（531）3月8日銘仏台座」である。

最終日である8月10日（土）は、青州市から淄博市臨淄区に移動し、斉国歴史博物館および臨淄石刻館にて調査を行った。

斉国歴史博物館では、「崔猷墓誌」と「正光3年（522）正月6日銘造像碑」の調査を行った。

これらは、確認ができたものの、どちらも移録および撮影の許可はされなかった。
臨淄石刻館では、おもに「興和2年（540）2月25日銘造像碑」の確認作業を行った。
その後、済南市まで移動し、空港の近くで昼食をとった。
帰路は、行きと同じく、韓国の仁川国際空港を経由するものであった。

3. 調査を終えての所感

今回の河北省および山東省の調査は、過去の調査をふまえていたこともあり、ほぼ滞りなく調査を行うことができた。

行程を見てもらえば分かるように、博物館へ多く訪れている。だが、それらを通じて実感したことがある。

それは、今を生きる人々に、過去の文物を保護する重要性を理解してもらうことである。
今回の調査では見なかったが、過去の調査で次のような場面に遭遇したことがある。

たとえば、ダムを作るために、建設地近くの村を廃村にしていたり、新たに道路を通すため、建設の邪魔になるものを取り壊したりといったものである。

遺跡破壊の実態をしめすものとして、次のような記事がある^{*1}。

記事の見出しには、「経済成長と引き換えに失われた文化財、文化大革命を超えた破壊—中国紙」とあり、そのなかで全国文化財全数調査の報告がなされている。

そこには、「中国全土に76万6722カ所の移動できない文化財が登記されているが、うち26%は保存状況が悪いと報告され」、「4万4000カ所の消失が確認された」とある。

文化財登記の数もかなりのものであるが、うち約3割の保存状態が悪く、4万4000カ所にのぼる文化財が消失している結果は、なにを物語るのだろうか。

同じ記事のなかで、謝辰生氏という文化財専門家は、「経済成長は続き法律の整備も進んでいるが、文化財保護に関してだけはむしろ後退して」おり、「GDP（国内総生産）ばかりを追求し文化財を顧みることがない」という結果が破壊につながっているとしている。

果たして謝氏の言うように文化財を顧みる状態にないのか、中国における文化行政を考える必要がある。そこで、中国では文化行政をどの部局が担当しているのか考えてみたい。

すると、文化行政に関しては、文化部と国家文物局の2箇所が担当していることが分かる。

それぞれの役割としては、文化部が「党中央、国务院の芸術文化政策の方針に基づいて芸術文化施策の推進及び関係法規の制定並びに監督執行^{*2}」、国家文物局が「文化財保護の

最高行政機関として全国の文化財保護行政及び博物館の管理運営等を行っている^{*3}」という。そのため、文化財の保護は、主に国家文物局がおこなっていると考えられるのである。

問題は、そこに費やされる予算規模についてである。

日本の文化庁が公開している資料^{*4}に基づく、2003 年当時のデータではあるが、文化庁（国家文物局）予算として 575 億円が割り当てられていることが分かる。資料には、他にも日本・韓国・オーストラリアの予算があげられており、それぞれ 1016 億円・1274 億円・1072 億円となっている。今から 10 年近く前のデータであるが、中国と他の国とでは、予算に 500 億円近くの差がある。この額は中国の国家予算に占める割合の 0.3%にすぎないという。

また、2013 年 3 月に野村総合研究所が、「諸外国の文化政策に関する調査研究報告書」を文化庁の委託事業として行っている^{*5}。そのなかで、2013 年の文化部の予算は 783 億円を計上しており^{*6}、国家予算に占める割合は 0.25%^{*7}であることがわかる。

2003 年と 2013 年のデータを比較すると、額は増やされているものの、予算に占める割合は少なくなっているのである。先の謝氏のコメントにも見えるように、国家として重点を置くのは、文化よりも経済であることの 1 つの現れともいえよう。

2013 年の予算内訳を見て思ったのは、博物館・図書館に対して 204 億円・141 億円とかなり費用を出しているのだが、教育に対して 0.03 億円と殆ど費用をかけていないことである。予算の使途内容に関しては分からないが、もし費用を出すのであれば、こちらにも重点的に費用を出してもらいたいと感じる。何故なら、移動できない文化財を日常的に管理しているのは、その近くに住む人々だからである。

文化財を活用し伝えていく場として博物館は重要であり、重点的に費用を出すことは大事であると思う。だが、それに関わる一般の人々に知識を伝達していく必要もある。

文化より経済活動に重きをおくこともわかるが、遺跡破壊の現状などもふまえ、これからは人々の意識改善へとむかう教育にも、費用をかけてもらいたい。

最後になるが、調査の全期間を通じ、バスを運転してくださった賈師傅氏、通訳とガイドを行っていただいた中国国際旅行社山東支社の魏廣平氏には、大変お世話になった。

関係してくださった方々すべてに、謹んで謝意を表したい。

*1「経済成長と引き換えに失われた文化財、文化大革命を超えた破壊—中国紙」『Record China Web サイト』

<http://www.recordchina.co.jp/group.php?groupid=78250>

（2013 年 10 月 25 日配信）（参照日：2014 年 3 月 3 日）

*2「我が国の文教政策（平成 5 年）」『文部科学省 Web サイト』（第 4 章第 5 節「諸外国の文化行政」のなかの「中国の文化行政」を参照）

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpad199301/hpad199301_2_077.html

（参照日：2014 年 3 月 3 日）

*3先にあげた「我が国の文教政策（平成 5 年）」（第 4 章第 5 節「諸外国の文化行政」のなかの「中国の文化行政」）参照

*4「各国の文化関係予算は」『文化庁 Web サイト』

http://www.bunka.go.jp/1aramasi/pdf/16_bunkaseisakubukai_1_05_1.pdf

(参照日：2014 年 3 月 3 日)

*5株式会社 野村総合研究所「諸外国の文化政策に関する調査研究報告書」(2013 年 3 月)『文化庁 Web サイト』

http://www.bunka.go.jp/kokusaibunka/chousa_houkoku/pdf/h24_houkoku.pdf

(参照日：2014 年 3 月 3 日)

*6「諸外国の文化政策に関する調査研究報告書」91 頁参照

*7「諸外国の文化政策に関する調査研究報告書」15 頁参照